

病棟における看護師間に生じる相互作用に関する文献検討

佐藤知枝、岩脇陽子

京都府立医科大学大学院保健看護学研究科

A Literature Review of the Interaction among the Nurses on Wards

Chie Sato, Yoko Iwawaki

Department of Nursing for Health Care Science, Graduate School of Nursing for Health Care Science, Kyoto Prefectural University of Medicine

要約

看護師の職務満足の上には、看護師間の良好な相互作用の構築が重要である。病棟における看護師間に生じている良好な関係を明らかにするために、「看護師間の相互作用」に着目し文献検討を行った。医学中央雑誌 Web 版に登録されている文献から、キーワードを「看護師」and「相互作用」、「看護師」and「相互行為」とし、原著論文に限定して検索を行い、患者と看護師の相互作用、看護師長と看護師の相互作用、看護学生に関連した相互作用、薬理作用に関連した相互作用を除外した 16 文献を対象に分析した。その結果、看護師間の相互作用を明確に定義している文献はみられなかった。看護師間の相互作用の文脈上の意味として、【見る - 見られるかかわり】【言葉を介したかかわり】【空気を汲み取り、場をよくするかかわり】【困難と支援の相反する関係】【人とのかかわり】の 5 つの категория が抽出された。看護師間の相互作用が看護師にもたらすものとして、【学習環境】【看護の方向性の共有】【安全な医療】【看護師としての成長】【やりがい】の 5 つの categoria が抽出された。

これら看護師間の相互作用が看護師にもたらすものは、統一した看護の方向性を共有する機会や安全な医療を提供することに繋がり、看護師が看護師を教育する学習環境となり、看護師としての成長を支援し、看護のやりがいを導く。これらは看護師の職務満足度を高める要因と類似していた。今後はさらに看護師間の肯定的な相互作用を生じさせる具体的方法を明らかにする必要性が示唆された。

キーワード：看護師、相互作用、看護師間、病棟、職務満足度

I 緒言

日本看護協会は、「2016 年病院看護実態調査」において、看護職員の離職はここ数年横ばいである一方で、看護部長が自施設の体制を「看護職員不足」と感じている割合は高くなっていることを報告している¹⁾。看護師の離職やそれに伴う看護師の不足は、単純に一人当たりの仕事量が増加するだけでなく、仕事から満足感を得るための重要な要素が欠けてしまうとの指摘もある。つまり、患者との「人間的な触れあい」ができなくなること、また「必要な時に必要とされるものを提供できたという実感から得た達成感」を得にくくなり²⁾、職務満足度を低下させてしまう。

日本における看護師の離職や職務満足度に関する研究では、職場環境に魅力を感じていると離職の意志が少なくなり³⁾、職務を継続する意志のある看護師の職務満足度は高い^{4) 5)}ことが報告されている。荒木らは看護師の職務満足度に影響する要因として「看護師相互の影

響」や「職場の人間関係」をあげており、看護師の職務満足度を高めるために「チームで活動する看護師間の良好な相互の関係の構築は重要」としている⁶⁾。このように看護師の職務満足度に看護師間の相互関係は影響する。このようなことから、看護師間に生じている相互作用を具体的にできれば、看護師の職務満足度を高める方策の一助になることが期待できる。

看護師と他の看護師とのかかわりは、看護師間の相互作用の中で生じる。そこで本研究は、「看護師間の相互作用」に着目し、病棟の看護師間に生じている相互作用とはどのようなものかを明らかにする。

II 方法

1. 文献の選定方法

医学中央雑誌 Web 版に登録されている文献から、キーワードを「看護師」and「相互作用」、「看護師」and「相互行為」とし、原著論文に限定して検索を行っ

た。投稿年数の制限はせず、計 311 件の文献が検出された (2015 年 2 月 10 日現在)。この中から、患者と看護師の相互作用、看護師長と看護師の相互作用、看護学生に関連した相互作用、薬理作用に関連した相互作用を除いた、16 件の文献の検討を行った。

2. 分析の方法

初めに、「看護師間に生じる相互作用とはどのようなものか」という視点で対象文献の概要を整理するため、目的別に分類した。次に研究対象者の相互作用の視点や範囲に着目し、どのような関係にある看護師の相互作用が、どのような方法を用いて調査されているのかをまとめた。続いて、対象文献で記されている「看護師間の相互作用」の定義について整理した。最後に、看護師が相互に作用した結果、看護師にもたらされるものは何かについて整理した。

看護師間の相互作用の定義については、文献中に明確に記されているもの、または定義づけがされていない場合は、文献中で「看護師間の相互作用」がどのような意味で用いられているか、という視点で内容を読

みとり、文脈を壊さないように記述内容を取り出した。記述内容に類似性を認めた場合は、それらをカテゴリーにまとめた。

看護師間の相互作用の結果、看護師にもたらされるものについては、対象文献の結果を熟読し、意味内容を壊さないよう記述内容を取り出した。類似性のある内容をサブカテゴリーにまとめ、それらのカテゴリーを集約し、カテゴリーを抽出した。

III 結果

1. 対象文献の概要

16 件の文献の発表年は、2003 年から 1 年に 1～2 件ずつ発表されているが、2008・2009 年及び 2011 年は 0 件と発表年による特徴はなかった。

研究目的には特徴があり、看護師間の相互作用そのものに焦点をあてた研究 5 件 (文献番号 1～5) と、別の目的で研究した結果として看護師間の相互作用が見出された研究の 11 件 (文献番号 6～16) に大別できた (表 1)。前者の研究の対象者は、新人看護師、新人看護師とその教育を担うプリセプター、病棟看護師

表 1 文献のタイトル、著者、研究目的

No.	タイトル	著者	研究目的
(1) 看護師間の相互作用に焦点を当てた研究			
1	救急領域に勤務する新人期看護師の技能習得に影響を及ぼす経験—実践共同体における相互作用に焦点をあてて—	鈴木亜衣美他	救急領域の新人看護師の技能習得のプロセスに及ぼす影響を相互作用に焦点を当てて明らかにする。
2	新卒看護師の看護実践コミュニティへの参加過程における学びの経験—正統的周辺参加論の視点によるエスノグラフィック・ケーススタディー—	奥野信行	新卒看護師が他の看護師との相互作用を通してどのように学んでいるのかを明らかにすること。
3	ナースステーションにおける看護チームの相互作用過程の特徴	原玲子	ナースステーションにおける看護チームの相互作用過程の特徴を明らかにすること。
4	プリセプターとプリセプティの役割遂行過程とその相互作用	大松真弓他	プリセプターシップにおいて、両者間でどのような相互作用が形成されたかを明らかにすること。
5	看護師の自己教育力の育成要因に関する研究—他者との相互作用を通じた内発的動機づけの形成を中心に—	長尾匡子	自己と他者との相互作用が、中堅看護師の自己教育力の動機づけにどのように関与しているのかを明らかにすること。
(2) 特定の看護師の特徴に焦点を当てた研究			
6	新人看護師行動の概念化	森真由美他	新人看護師の行動を説明する概念を明らかにすること。
7	新人看護師を指導するプリセプター行動の概念化—プリセプター役割の成文化を目指して—	吉富美佐江他	プリセプターの行動を表す概念を明らかにすること。
8	新人看護師の看護実践能力向上に向けた先輩看護師の関わり	池田宏子	看護実践能力向上に向けた新人看護師に対する先輩看護師のかかわりの内容と方法を明らかにすること。
9	カンファレンスを運営するチームリーダーの行動に関する研究	長友美穂子他	カンファレンスを運営するチームリーダーの行動を表す概念を明らかにすること。
10	病院においてリーダー役割を担う看護師の行動の解明—勤務帯リーダーに焦点を当てて—	山品晴美他	日勤帯リーダーの行動の特徴を明らかにすること。
(3) 看護師間の相互作用が明らかになった研究			
11	小児看護の実践知を創造する組織の要件	川名るり他	小児医療病棟の看護の知を共有・創造することを促進する組織の要件を明らかにすること。
12	一般病棟における終末期がん患者と家族に対する看取りケア実践の関連要因—がん看護専門看護師の教育的立場からみた要因の分析	吉岡さおり他	一般病棟の看護師による終末期がん患者の看取りケアの実践に関連する要因を明らかにすること。
13	臨床における看護師の教育的支援に関する意識調査—視覚的刺激が教育的支援に及ぼす影響	大熊恵子	看護師の教育的支援と、自分の看護が見られている／他の看護師の看護を見ている認識度との関連性を明らかにすること。
14	精神科病棟に勤務する若手看護師の看護者間対人葛藤とサポートシステムについて	山口知代他	精神科病棟で勤務する1～5年目看護師が感じている、看護師間の対人関係上起こる葛藤を明らかにすること。
15	救急部門に働く看護職のキャリア発達に関する実証的研究—キャリア志向に焦点をあてて	坂口桃子他	救急部門に働く看護職のキャリア志向の形成過程を明らかにすること。
16	看護師が関与する医療事故・インシデントの発生要因—総合病院に勤務する看護者の調査結果から—第1報	佐藤信枝他	看護行為のどこが事故発生につながるのかを明らかにすること。

全体であった。

結果的に看護師間の相互作用が見出された研究では、特定の役割のある看護師の特徴を明らかにすることを目的としたもの5件（文献番号6～10）とそれ以外の目的のもの6件（文献番号11～16）に分類できた。特定の役割の看護師とは、新人看護師、プリセプターなど新人看護師の教育にかかわる看護師、病棟のリーダーを担う看護師であった。

それ以外の目的の6件（文献番号11～16）については、小児看護の知を創造する組織要件を明らかにしたもの、終末期看護の実践に関する要因を明らかにしたもの、精神科病棟で生じる葛藤に着目したもの、インシデントの発生要因を抽出したものなどがあつた。

2. 研究対象者と研究手法及び相互作用の視点と範囲

表2は、研究対象者と研究方法、さらにどのような関係にある看護師の相互作用が、どの視点でどこまで記されているのかをまとめたものである。表中の「⇔」は、相互作用をしている人物が、誰と相互に作用しているのかを示している。また「【 】」及び太字は、対象文献で記されている相互作用の範囲を示している。

研究対象者は新人看護師を教育する役割を担っているプリセプターやその他の看護師、またリーダー看護師などの特定の役割のある看護師を対象としたものや、新人看護師、1～5年目看護師、6～7年目看護師など看護師経験年数で研究対象者を限定したもの、特に限定せずあらゆる看護師を対象としたものがあつた。

研究手法は、質的研究ではインタビュー法や参与観察法、ビデオ撮影法と様々な手法が用いられていた。量的研究では質問紙を用いて要因間の関連を調査して

いた。

相互作用の視点と範囲では、各研究対象者を中心とした相互作用に限定されており、対象者とかかわる他の看護師への相互作用には言及されていなかった。唯一、大松らは、プリセプター-プリセプティ両者を対象としており、お互いから受けた相互作用に注目していた（文献番号4）。

3. 相互作用の定義及び意味

対象となつた16件の研究に、「相互作用」や「看護師間の相互作用」について明確に定義づけをしているものはなかつた。そこで各文献内で「看護師間の相互作用」が文脈上で「どのような意味で用いられているか」、という視点で内容を抽出した。

その結果、【見る-見られるかかわり】【言葉を介したかかわり】【空気を汲み取り、場をよくするかかわり】【困難と支援の相反する関係】【人とかかわり】の5つが抽出できた。表3は、文脈上での「相互作用」の意味をまとめたものである。

【見る-見られるかかわり】では、「新人看護師は、先輩看護師の患者への対応を観察し」ていたり（文献番号6）、「新人看護師への先輩看護師のかかわりとして、不十分な技術を意図的に、見せ」たりしていた（文献番号8）。また「モデルの存在」によって看取りケアの価値観が形成されたとする報告では、そのモデルの看護実践を見て学ぶという相互作用が記されていた（文献番号12）。このように【見る-見られるかかわり】では、看護師は他の看護師の看護を見る、または見られる関係にあることを示している。

【言葉を介したかかわり】では、先輩やプリセプターからの「助言」を介して、看護師として成長するプロ

表2 研究対象者と研究方法、相互作用の視点と範囲

No.	研究対象者	研究方法	相互作用の視点と範囲
4	プリセプターとプリセプティ	インタビュー法	【プリセプター ⇔ プリセプティ】
1	新人看護師	インタビュー法	【新人看護師 ⇔ 】 先輩看護師
2	新人看護師	参与観察法とインタビュー法	
6	新人看護師	参与観察法	
7	プリセプター	参与観察法	【プリセプター ⇔ 】 新人看護師
8	先輩看護師	参与観察法	【先輩看護師 ⇔ 】 新人看護師
9-10	リーダー看護師	参与観察法	【リーダー看護師 ⇔ 】 メンバー看護師
3	看護師	ビデオ撮影法	【看護師 ⇔ 】 看護師
5	6～7年目看護師		
11	5年目以上看護師	インタビュー法	
12	がん看護専門看護師		
14	1～5年目看護師		
13	看護師	質問紙法	
15	5年目以上看護師		
16	看護師		

⇔ は、相互作用をしている人物が、誰と相互に作用しているのかを示している。
【 】及び太字は、対象文献で記されている相互作用の範囲を示している。

表3 文献中で用いられている相互作用の意味

No.	文献中で用いられている相互作用の意味	相互作用の意味のカテゴリー
6	観察	
8	意図的な技術の披露(みせる)	
12	モデルとなる看護師とのかかわり	見る - 見られるかかわり
13	他の看護師を見ている、または自分の行動が見られているという認識	
1	先輩看護師からの助言	
3	情報交換	
4	プリセプターからの助言	言葉を介したかかわり
10	情報提供	
11	対話	
16	コミュニケーション	
4	プリセプティへの笑顔	
7	緊張の緩和	空気を汲み取り、 場をよくするかかわり
9	穏やかな雰囲気への演出	
14	困難と支援	困難と支援の相反する関係
2	先輩看護師とのかかわり	
5	他者とのかかわり	人とかかわり
15	対人関係	

セスを示し(文献番号1、4)、「ナースステーション内の看護師間の相互作用は情報交換が中心であった」(文献番号3)、「他病院から来た看護師との対話が新しい方法を生み出す機会となった」(文献番号11)など、看護師が言葉を介してかかわっていることを示している。

【空気を汲み取り、場をよくするかかわり】は、「プリセプターは、新人看護師が困難に直面していることを察知し、緊張を和らげるかかわりをしていた」(文献番号7)や、「チームリーダーは、カンファレンスが円滑に進むように、穏やかな雰囲気を演出していた」(文献番号9)からなる。看護師は、視覚的・言語的なかわりだけでなく、周囲の状況を見聞きすることで場の雰囲気を把握し、行動していることを示している。

【困難と支援の相反する関係】は、「周囲の看護師とのかかわりで生じる困難と支えがもたらすやりがい」から抽出し、人間関係によって生じる困難と、反対に周囲とのかかわりの中から得られるやりがいを示している。この報告は唯一看護師間の相互作用のネガティブな側面も示している(文献番号14)。

【人とかかわり】では、各文献で「他者との相互作用」「新人看護師と看護実践コミュニティにおける人びととの相互作用」(文献番号3)や、「内なる自己と外なる他者との相互作用」(文献番号5)、「対人関係による相互作用」(文献番号15)と記されており、相互作用に関するこれ以上の説明がなく、【人とかかわり】とした。

4. 看護師間の相互作用が看護師にもたらすもの

対象文献の結果に記されている看護師間に生じた相互作用が看護師にもたらすものについて整理した結果、【学習環境】【看護の方向性の共有】【安全な医療】【看護師としての成長】【やりがい】の5つのカテゴリーが抽出された(表4)。

【学習環境】では、救急領域の新人看護師の技術習得に影響を及ぼす経験を調査した結果、「新人期看護師との相互作用を活発にすることで、内省的思考を促し、学び合い、学び続ける実践共同体が形成されている」ことが報告されていた(文献番号1)。このことから、新人看護師と先輩看護師との相互作用が【学習環境】をもたらしているとした。

【看護の方向性の共有】は、リーダー看護師を対象にその特徴を明らかにした結果、「リーダー看護師は、穏やかな雰囲気を演出することで、カンファレンスが円滑に維持され、患者目標が共有されていた」(文献番号9)、「リーダー看護師が自ら情報を収集し、メンバー看護師にその情報を提供することで、患者目標の達成を促進していた」(文献番号10)ということが報告されていた。看護師は、看護師間の相互作用によって「患者目標」や「価値観」を共有し、みんなで同じ目標をもって看護を提供していると捉え、【看護の方向性の共有】とした。

【安全な医療】は、看護師間の相互作用が、安全な医療サービスの提供のための基盤となっていた(文献番号3)、「医療事故防止に関連していた」(文献番号16)という報告から、抽出した。

表4 看護師間の相互作用が看護師にもたらすもの

No.	結果	看護師間の相互作用がもたらすもの	
		サブカテゴリー	カテゴリー
1	新人期看護師との相互作用を活発にすることで、内省的思考を促し、学び合い、学び続ける実践共同体が形成されていた。	学び合い、学び続ける実践共同体	学習環境
9	リーダー看護師は、穏やかな雰囲気を出することで、カンファレンスが円滑に維持され、患者目標が共有されていた。	チーム内の患者目標の共有	
10	リーダー看護師が自ら情報を収集し、メンバー看護師にその情報を提供することで、患者目標の達成を促進していた。	患者目標の達成を促進	看護の方向性の共有
12	スタッフ間の相互作用によって看取りに対するチーム内の価値観が形成されていた。	チームの価値観の形成	
3	相互作用が、安全な医療サービスの提供のための基盤となっていた。	安全な医療サービス	安全な医療
16	看護師間の積極的なコミュニケーションが医療事故防止に関連していた。	医療事故防止	
2	新人看護師は看護実践コミュニティからの応答性を通して、看護実践を学んでいた。	看護実践の学び	
4	プリセプター・プリセプティ間の良好な相互作用が互いの成長を促進させていた。	成長の促進	
5	他の看護師との相互作用が内発的動機づけに影響し、目標設定やキャリア開発につながっていた。	キャリア開発	
6	新人看護師は、先輩看護師の患者への対応を観察しながら、看護師としての模範となる行動を習得していた。	看護師としての模範の習得	
7	プリセプターは新人看護師が困難に直面していることを察知し、緊張を和らげることで、新人看護師は患者への援助が不安なく行えるようになっていた。	不安のない患者援助	看護師としての成長
8	新人看護師への先輩看護師のかかわりとして、不十分な技術を意図的に、実際に見せることで、看護実践能力の向上につながっていた。	看護実践能力の向上	
11	他病院で経験のある看護師との相互作用によって、これまでの看護技術を見直す機会につながった。	看護技術の更新	
13	他の看護師を見ている、または他の看護師から見られているという相互作用が、ロールモデル行動につながっていた。	ロールモデル行動の促進	
15	救急領域の看護師は、上司以外の看護師との相互作用からキャリア志向の形成に影響を受けている可能性が示唆された。	キャリア形成	
14	スタッフとの相互作用は、看護師としてのやりがいを支えていた。	やりがい	やりがい

【看護師としての成長】では、プリセプター・プリセプティの両者を対象とした研究で、「プリセプター・プリセプティ間の良好な相互作用が互いの成長を促進させていた」という報告や（文献番号4）、看護師の教育的支援に及ぼす影響を調査した結果、「他の看護師を見ている、または他の看護師から見られているという相互作用が、ロールモデル行動につながっていた」という報告（文献番号13）などから抽出した。また、新人看護師を指導するプリセプターの行動の特徴を明らかにした報告では、プリセプターは「新人看護師が困難に直面していることを察知し、緊張を和らげ」ることで、「新人看護師は患者への援助が不安なく行えるようになっていた」と記されていた（文献番号7）。看護師間の相互作用が内発的動機づけにどのように影響しているかを調査した研究では、「他者との相互作用のモードの相違」によって内発的動機づけが2パターンあるとし、他者との関わりが情動的な場合は、身近な目標設定となりやすく、一定の距離をおいて他者と関わっている場合は将来を見据えたキャリア開発を志向するようになる、と結論づけている（文献番号5）。このように看護師は他の看護師との相互作用によって、成長の促進、ロールモデル行動の促進、不安のない患者援助、キャリア開発といった、【看護師としての成長】をしていると解釈した。

【やりがい】は、精神科病棟の看護師が他の看護師とかわる中で生じる感情に焦点を当てた研究で「スタッフとの相互作用が看護師としてのやりがいを支え」ていた、という報告から抽出した。看護師は他の看護師とのかかわりで生じる葛藤や、自分への不甲斐なさに気づき負の感情を持つようになるが、結局は他の看護師から支えられることで、看護師としての【やりがい】を獲得していた（文献番号14）。

IV 考察

1. 看護師間の相互作用の意味

看護師の相互作用に関する16件の文献には、明確に相互作用を定義している文献はみられなかった。各文献で用いられている相互作用の意味を整理した結果、【見る-見られるかかわり】【言葉を介したかかわり】【空気を汲み取り、場をよくするかかわり】【困難と支援の相反する関係】【人とのかかわり】の5つのカテゴリーが抽出された。

看護師間に生じる相互作用が、【見る-見られるかかわり】という視覚的な関係を示している背景には、16件の研究対象者の半数が、プリセプターやリーダーなど教育的な役割を担う看護師もしくはその指導を受ける新人看護師であったことが影響していると思われる。新人看護師や異動直後の看護師は、その病棟で行

われる看護を実践するために先輩看護師から直接指導を受け⁷⁾、他の看護師とかかわる中で新しい技術を習得している^{8) 9)}。看護師はあらゆる看護技術を用いて患者のケアにあたるため、その技術の習得は他の看護師から指導を受ける場面や看護ケアの実践を見て学ぶことになる。

【言葉を介したかかわり】が抽出された背景には、看護は看護師一人で実践できるものではなく、常に病棟内の看護師が協働することで展開されていることを示している。安全で適切な看護ケアを24時間患者に提供し続けるため、看護師は交替勤務の中で、継続した看護を提供している。近年看護業務の合理化を理由に日勤から準夜勤務などへの申し送りが短縮・廃止される傾向にある。しかしながら、看護師から看護師への言葉を介した対話が看護師個人の実践能力や看護の質向上に関連しているとの報告や¹⁰⁾、看護師間の会話が看護師の感情表出の場になることで看護師のフラストレーションの軽減につながっているという報告がある¹¹⁾。看護の業務は、刻々と変化する患者の状態をタイムリーに把握し、適切な看護ケアを提供しなければならない。そのため、看護師間の言葉を介したやりとりは、患者情報を共有するという点だけでなく、実践能力の向上、看護師のストレスの軽減など、お互いに与える影響は大きいことを示している。

一方、視覚や言葉以外の方法で【空気を汲み取り、場をよくするかかわり】が抽出された。看護師間のかかわりは、視覚や聴覚を用いたかかわりだけでなく、肌で感じ、さらに場の空気をよくするという行動にまで及んでいた。今回対象とした文献からは、「プリセプティへの笑顔」(文献番号4)、「緊張の緩和」(文献番号7)、「穏やかな雰囲気演出」(文献番号9)といった具体的な言動が示されており、これらの方法が看護師間の相互作用を良好なものにすることが期待される。

【困難と支援の相反する関係】は、看護師間に生じる相互作用の意味として、看護師間の否定的な側面を示している唯一の文献から抽出された。教育的支援や看護師が仕事を継続する要因に注目した報告では、他の看護師とかかわりの中で、ミス指摘される、頑張りを認めてもらえないことで否定的な感情が出現するが、指導によって自分でも成長したことが実感できた、周囲の支えによって自信を持つことができるようになった^{12) 13)}という、相反する感情が示されている。これらの報告では他の看護師とかかわる中で困難を感じるが、それを乗り越えた結果やりがいを獲得してい

くプロセスが示されている。しかし、これまでに述べてきたように看護師は常日頃から他の看護師とかかわる中で何かしらの影響を受けている。看護師間の相互作用の意味を検討する上では、長期的なプロセスを辿る看護師間の相互作用だけでなく、一定の場面で短期的に生じる相互作用も把握していく必要がある。今後は限定された場面における具体的事例を収集し、それぞれの場面で看護師間にどのような相互作用が生じているのかを検討していくことが課題である。

「看護師間の相互作用」に関する文献には、上記のような意味をもつものだけでなく、【人とかかわり】と捉えることのできる文献もあった。「看護師間の相互作用」を明確に定義している文献がなかったことから、今後定義を検討していくことが求められる。

2. 看護師間の相互作用が看護師にもたらすもの

看護師間に生じた相互作用が看護師にもたらすものとして、【学習環境】【看護の方向性の共有】【安全な医療】【看護師としての成長】【やりがい】の5つのカテゴリーが抽出された。これらから、看護師間に生じる相互作用は、統一した看護の方向性を共有する機会となり、安全な医療を提供することに繋がるのが推測される。また、看護師間の相互作用は、看護師が看護師を教育する学習環境そのものであり、看護師としての成長を支援し、看護のやりがいを導くことになると考えられる。

看護師の職務満足度を調査した研究では、新人看護師が先輩看護師とかかわりやすい状況は、学習を促進する環境を生み出し、仕事を継続する原動力になるという報告がある¹⁴⁾。看護チームとして目的や方法が共有され、安全や患者へのケアの質が保証されている環境では看護師の職務満足度が高まる¹⁵⁾。また看護師は他の看護師とかかわる中で「成長への可能性」や「仕事のやりがい、楽しさ」¹⁶⁾、「やりがい・醍醐味を味わう」¹⁷⁾と職務満足度が高まることが示唆されている。これらから、看護師間の相互作用が看護師にもたらす【学習環境】【看護の方向性の共有】【安全な医療】【看護師としての成長】【やりがい】は、看護師の職務満足度向上に寄与すると言える。今後、看護師間の相互作用が肯定的な影響をもたらす具体的方法を検討していく必要がある。

看護師間に生じる相互作用に言及した16件の文献はそのほとんどが研究対象者を中心とした相互作用のみに注目していた。つまり、研究対象者とかかわる他の看護師の変化や影響についてはほとんど説明されてい

ない。唯一両方の相互作用について調査した大松らの研究では、プリセプターとプリセプティの両者からインタビューしていた（文献番号4）。したがって今後は研究対象者とその相互作用の範囲を拡大し、かかわり合う看護師両者を対象とした調査方法が必要である。

V 研究の限界

病棟における「看護師間の相互作用」の明確な定義はなく、今後多くの事象を検討しながら意味づけをしていく必要がある。また看護師間の相互作用によって生じる影響については、肯定的側面のみが報告されており、職務満足度に影響する相互作用の全体を考慮するためにも否定的側面の検討も必要である。長期的なかかわりの中で生じる相互作用やそれによって看護師にもたらされるものだけでなく、具体的な場面を検討することで、職務満足度を高める具体的な方策を抽出することが可能と考えられる。

今回の文献検討では看護師間の相互作用に限定して検討したが、看護師は患者や他の医療従事者ともかかわって、お互いに影響し合っている。今後は職務満足度に影響する看護師以外の人との具体的なかかわりを調査する必要もある。

VI 結論

病棟における看護師間にどのような相互作用が生じているのかを明らかにするため、16文献を対象に文献検討を行った。

1) 看護師間の相互作用は明確に定義されておらず、看護師間の相互作用の研究および看護師間のかかわりを相互作用場面として記述している研究に分類された。

2) 看護師間の相互作用の文脈上の意味として【見る-見られるかかわり】【言葉を介したかかわり】【空気を汲み取り、場をよくするかかわり】【困難と支援の相反する関係】【人とのかかわり】が抽出された。

3) 看護師は他の看護師と相互に作用することで、【学習環境】【看護の方向性の共有】【安全な医療】【看護師としての成長】【やりがい】を得ていた。

これらから今後、看護師間の肯定的な相互作用を生じさせる具体的な方法を検討していく必要性が示唆された。

VII 文献

1. 分析対象文献

1) 鈴木亜衣美, 細田泰子 (2014): 救急領域に勤務す

る新人期看護師の技能習得に影響を及ぼす経験-実践共同体における相互作用に焦点をあてて, 日本看護研究学会雑誌, 37(2): 1-11.

2) 奥野信行 (2014): 新卒看護師の看護実践コミュニティへの参加過程における学びの経験-正統的周辺参加論の視点によるエスノグラフィック・ケーススタディー, 京都橘大学研究紀要, 39: 76-100.

3) 原玲子 (2010): ナースステーションにおける看護チームの相互作用過程の特徴, 宮城大学看護学部紀要, 13(1): 15-25.

4) 大松真弓, 中村慶子 (2005): プリセプターとプリセプティの役割遂行過程とその相互作用, 日本看護科学学会学集會講演集, 25: 239.

5) 長尾匡子 (2003): 看護師の自己教育力の育成要因に関する研究-他者との相互作用を通じた内発的動機づけの形成を中心に, 日本看護科学学会学術集會講演集, 23: 192.

6) 森真由美, 亀岡智美, 貞廣和香子他 (2004): 新人看護師行動の概念化, 看護教育学研究, 13(1): 51-64.

7) 吉富美佐江, 舟島なをみ (2007): 新人看護師を指導するプリセプター行動の概念化-プリセプター役割の成文化を目指して, 看護教育学研究, 16(1): 1-14.

8) 池田宏子 (2007): 新人看護師の看護実践能力向上に向けた先輩看護師の関わり, 日本看護学会論文集: 看護教育, 38: 87-89.

9) 長友美穂子, 松田安弘, 山下暢子他 (2014): カンファレンスを運営するチームリーダーの行動に関する研究, 群馬県立県民健康科学大学紀要, 9: 55-75.

10) 山品晴美, 舟島なをみ (2006): 病院においてリーダー役割を担う看護師の行動の解明-勤務帯リーダーに焦点を当てて, 看護教育学研究, 15(1): 48-61.

11) 川名るり, 筒井真優美, 江本リナ他 (2012): 小児看護の実践知を創造する組織の要件, 小児保健研究, 71(5): 681-688.

12) 吉岡さおり, 森山美知子 (2010): 一般病棟における終末期がん患者と家族に対する看取りケア実践の関連要因-がん看護専門看護師の教育的立場からみた要因の分析, 広島国際大学看護学ジャーナル, 8(1): 61-69.

13) 大熊恵子 (2006): 臨床における看護師の教育的支援に関する意識調査-視覚的刺激が教育的支援に及ぼす影響, 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録, 34: 132-139.

14) 山口知代, 島津聖子, 山田貴代子他 (2006): 精神科

病棟に勤務する若手看護師の看護者間対人葛藤とサポートシステムについて, 大阪府立大学看護学部紀要, 12(1): 77-84.

- 15) 坂口桃子, 花井慶子, 三浦睦子他 (2004): 救急部門に働く看護職のキャリア発達に関する実証的研究—キャリア志向に焦点をあてて, 日本臨床救急医療学会雑誌, 7(3): 240-247.
- 16) 佐藤信枝, 奥村百合恵, 小山聡子他 (2003): 看護者が関与する医療事故・インシデントの発生要因 - 総合病院に勤務する看護者の調査結果から - 第1報, 新潟青陵大学紀要, 3: 213-222.

2. 引用文献

- 1) 日本看護協会 HP 「2016 年 病院看護実態調査」結果速報
http://www.nurse.or.jp/up_pdf/20170404155837_f.pdf (検索日: 2017 年 8 月 6 日)
- 2) パトリシア・ベナー著/井部俊子訳 (2005): ベナー看護論 (新訳版), 東京: 医学書院.
- 3) 白石葉子, 難波浩子, 岡本恵里他 (2013): 三重県における看護職員の離職の意志と職場環境との関連, 三重県立看護大学紀要: 17, 35-45.
- 4) 関口和宏, 石井邦子 (2014): 職務満足度と看護職員の属性からみる職務継続意欲の検証, 日本看護学会論文集: 看護管理, 44: 193-195.
- 5) 川内恵美子, 大橋一友 (2011): 二次医療圏の国公立病院で働く助産師・看護師の Work Engagement 及び職務満足度と離職意志の関係, 日本看護管理学会誌, 15(1): 39-46.
- 6) 荒木彩花, 永井綾, 岩本郁子他 (2014): 看護師の職務満足度に関する文献検討, 看護展望, 39(4): 78-87.
- 7) 西田絵美, 田中由紀, 大槻直美 (2014): 新人看護師への教育的かかわりによるチームの成長プロセス, 日本看護学会論文集: 看護教育, 44: 169-172.
- 8) 佐藤真由美 (2010): 新卒看護師の成長を促進する関わり, 日本看護管理学会誌, 14(2): 30-38.
- 9) 佐藤淳子 (2011): 中堅看護師の職務継続に影響したやりがいとその要因となる経験, 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録: 教員・教育担当者養成課程看護コース, 36: 202-209.
- 10) 崎山充, 林秀彦, 皆月昭則 (2011): SECI モデルに基づく双方向的な情報, コミュニケーションに関する一考察 - 対話を対象とした看護師間の申し送りの分析 -, 鳴門教育大学情報教育ジャーナル, 8: 19-24.
- 11) 佐藤可奈 (2015): 申し送りにみる文化, 看護研究, 48(3): 296-298.
- 12) 荒川千秋, 小山内由希子, 叶谷由佳他 (2006): 大卒新人看護師の支援のあり方に関する研究, 日本看護管理学会誌, 10(1): 37-43.
- 13) 大谷敏子, 中澤明美 (2013): 配置転換で集中治療室勤務となった看護師の職場適応プロセス, 日本看護学会論文集: 看護管理, 43: 415-418.
- 14) 佐藤真由美 (2010): 新卒看護師の成長を促進する関わり, 日本看護管理学会誌, 14(2): 10-38.
- 15) 撫養真紀子, 勝山貴美子, 青山ヒフミ (2014): 病院に勤務する看護師の職務満足測定尺度の信頼性・妥当性の検討, 社会医学研究, 31(1): 37-44.
- 16) 前田和子, 三木明子 (2011): 他科から勤務異動した看護師が精神科看護に熟達する経験のプロセス, 日本精神保健看護学会誌, 20(2): 1-10.
- 17) 小林美亜, 鈴木美穂, 坂口千鶴他 (2006): 日本語版 NWI-R の開発 - 看護の専門性を発揮できる職場環境の評価のために, 看護管理, 16(11): 929-935.